ふるさと 井波

R５、２、６

No.７０ 松永和久

【 「井波のすてき発見」の学習 】

○　２月３日（金）、３年生が総合的な学習の時間（「井波のすてき発見」）に、井波彫刻師さんから井波彫刻に関する話を聴きました。やはり実際に携わっておられる方から直接話を聴くことは、大変分かりやすいです。子供たち同様、私も聴いていて、幾つか印象に残ることがありました。

・井波彫刻は、他の所から来る人にとってはすごいと思われる。しかし、地元にいる人には、その実感が湧きにくい。

・井波彫刻は、一夜にしてできたものではない。長く続く文化（井波彫刻）に多くの人が憧れる。

・瑞泉寺は、北陸一である。元々、井波には大工はいたけど、彫刻師はいなかった。瑞泉寺が焼けた時、前川三四郎さんが大工に技術を教えたのが、井波彫刻の始まりである。

○　たしかに、地元にいることで、地元のよさや魅力について気付きにくいものだと思います。だからこそ、ふるさと学習を行っている子供たちは、地元の魅力に気付く意義ある学習をしているのだと改めて思います。

【 競書大会の表彰式 】

○　２月４日（土）、井波総合文化センターで、第44回井波地域づくり協議会競書大会の表彰式がありました。文化・スポーツ部会が主催となり、３・４年生は「井波小学校の校歌」、５・６年生は「緑の里から」という字を正確に、丁寧に書く大会です。中学生も応募しています。

○　「校歌」や「緑の里」の歌詞を集中して書くことで、「校歌」や「緑の里」の歌に対する親しみが一層深まり、歌詞の意味を考えるきっかけになるという大きな効果があると思います。今、文化センターにはすばらしい作品が掲示されています。

○　字を美しく書くことは、見る人にも感動を与えます。競書大会を通して、子供たちの字に対する意欲、書く力、ふるさとを愛する心もますます向上することでしょう。